



ブラジル鹿児島県人会創立100周年記念事業

ブラジル鹿児島県人会創立100周年を祝い、平成25年10月20日にブラジルサンパウロ市で「ブラジル鹿児島県人会創立100周年及び県人移民105周年記念式典」が盛大に行われました。

この記念式典には、鹿児島県からの訪問団85人を含む500人以上が出席し、移住家族やその子孫ら県人会関係者が、100周年の節目を祝いました。当協会が事務局を兼ねている「鹿児島県海外移住家族会」からは、川畑会長と協会の事務局長が現地を訪れ、園田ブラジル県人会会長に記念品を贈呈しました。ブラジルでの式典後は、訪問団一行はそれぞれのコースに分かれ、ペルーやパラグアイを訪問し、現地鹿児島県人会との交流を行いました。



《式典にてケーキカットの様子》



《ブラジル写真展》

また、この記念式典に向けて、7月から8月にかけて、国際交流ブラザで、ブラジルを紹介する写真やパネル等の展示を行いました。期間中は、写真家の住吉重太郎様にお貸しいただいたブラジルの写真や、ブラジルに在住している徳吉義男様から提供いただいたブラジルのパネル等を展示したブラジル写真展、海外移住資料館より御貸しいただいた貴重な教材で、ブラジルの紹介を行い、たくさんの方にお越しいただきました。

さらに、県民の方々にブラジルの文化等を理解していただくことを目的に、8月24日から9月28日の間、「ブラジルコーヒー講座」、「カポエイラ講座」、「ブラジル文化講座」、「ブラジルわくわく文化講座」を開催しました。多くの参加者の方に、ブラジルと鹿児島との繋がりの深さや歴史の長さを実感していただき、「楽しかった。ブラジルに行きたい。」という嬉しいお声をいただきました。



《ブラジル文化講座》

日本語・日本理解講座



《教室の様子》

外国の方に、生活に役立つ日本語、日本の生活習慣や様式などを学んでいただく「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を平成25年5月から平成26年2月まで全60回（火曜日クラス30回、木曜クラス30回）実施しました。

今年度は、日本語学習はもちろん、体験型学習として郵便局での切手の買い方、お店への電話のかけ方、バスの乗り方など日常それぞれの場面を想定した練習を行いました。受講者も、最初は緊張していましたが、臨場感あふれる練習を積極的に楽しんでいました。

また今年度は、おはら祭りや多文化共生地域づくり事業（火山防災・医療講座）にも積極的に参加していただきました。この一年間の日本語学習をとらえて、日本語だけではなく、日本文化などへの興味も一層深めていただけたようです。

英語絵本の読み聞かせ講座

幼少期から英語に触れる機会を提供することで英語への関心を高めることを目的とし、小学生までの子どもを対象に国際交流員による英語絵本の読み聞かせ講座を4月から3月まで12回行いました。

読んだ絵本は『大きなかぶ』や『まちのねずみといなかのねずみ』、『くまさん、くまさん、なにを見てる?』など子どもたちにとって馴染み深いもの、またハロウィンや感謝祭、クリスマスの時期にはその行事にちなんだものでした。また講師は、絵本に出てくる単語を絵と共に発音する機会をつくり、子ども達が発音することで絵本への理解を深めました。

簡単な工作や英語の歌を歌う活動を行いました。絵本『大きなかぶ』では登場する動物のお面を作りそれをつけて子ども達が寸劇を行い、歌

『Hokey-pokey』では保護者も一緒に踊り、集中して読み聞かせを聞く時間とは異なる笑いの絶えない賑やかなひとときもありました。これからも楽しい気持ちで英語に触れる機会となるよう努めていきたいと思っております。



《読み聞かせの様子》

多文化共生地域づくり事業



《桜島ビジターセンター》

今年度は桜島大正大噴火100周年ということで、鹿児島在住の外国籍住民の方々を対象に桜島体験ツアーを行いました。13か国29名の方に参加をいただき、鹿児島における火山災害や備えについて知っていただきました。

参加者の皆さんは、講師の福島先生（NPO法人桜島ミュージアム理事長）より、桜島の噴火の歴史や火山防災だけでなく、桜島のもたらす恩恵についても学びました。講座修了後、「災害時には慌てず行動することがいかに大切か再確認できた」との声をいただきました。火山防災の知識を身につけ、桜島にも興味を持っていただけた講座となりました。

また、2月には市内の医療機関に協力いただき、病院体験ツアーを行い、10か国22名の在住外国人の方が参加しました。参加者からは「日本の病院のことを知って1人で行く自信がついた」という感想が寄せられました。参加した外国人にとって日本の医療現場を身近に感じてもらう良いきっかけになったのではないかと思います。

～鹿児島で世界を語ろう～第19回外国人による日本語スピーチコンテスト

平成26年1月25日に、かごしま県民交流センター中ホールで「第19回外国人による日本語スピーチコンテスト」を開催しました。予選には11の国・地域から30人の外国籍の方が参加し、その中から選ばれた10人（7の国や地域出身）が出場しました。

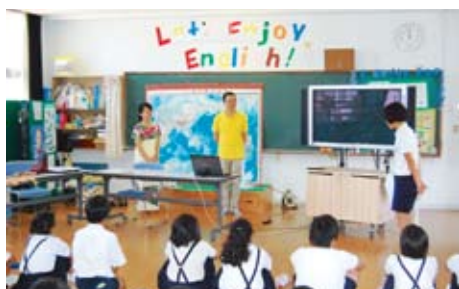
最優秀賞を受賞したのは、台湾出身で、現在、志學館大学で学ばれている王 語涵（オウ ゴカン）さん【タイトル：言葉のおもてなし】。日本人は「行けたら行く」などの曖昧な表現をよく使うので、外国人にとって理解が難しいが、それは、日本人が言葉の上でも「おもてなし」をしているのだと語りました。

10人の皆さんは、身振り手振りを交え、流行語を駆使し、異文化で感じた驚きや国際平和への思いを流暢な日本語で発表し、観客を沸かせていました。今年も、約310名の来場者があり、県民の皆さまにも国際理解についての理解が高まっているように感じました。今後も、国籍や文化の違いを越え、多文化共生への理解が深まることを期待しています。



《本選出場者（前列）と審査員（後列）》

協力隊OBと留学生が先生事業



《南種子町立島間小学校にて》

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会と当協会の3団体が連携して実施しているこの事業は、年間40校以上、平成7年度の事業開始以来、延べ750校以上の県内小・中学校に、青年海外協力隊として世界各国で活動していた帰国隊員を講師として派遣しています。学校の希望により、留学生など県内在住外国人も同行し、母国の紹介を行うこともあります。（年間派遣校の約半数）

写真や音楽、民族衣装などを使用し、様々な工夫を凝らした各講師の授業は学校から大変好評をいただき、児童・生徒からは、「教育が受けられることは贅沢なことだと思った。」、「日本人の生活がどれだけ豊かで恵まれているのか改めて気付けた。」、「いろいろな国について調べてみたい。」などの感想をいただきました。国際協力や発展途上国に対する理解と関心を深めてもらう良いきっかけになっているようです。

県国際交流員による文化紹介講座

鹿児島県国際交流員（韓国・中国・アメリカ・シンガポール出身）の4名が、自国の文化や料理を紹介する講座を平成25年度5月から平成26年度2月にかけて、7回にわたり開催しました。指宿市の講座「韓国料理講座」、枕崎市の「自分づくり講座・国際理解講座」、日置市の「まるごと伊集院フェスティバル」等において多くの県民の方に参加いただきました。

枕崎市では、中国出身の講師、路 海静（ロ カイセイ）さんが、家庭料理講座と男女共同参画の文化紹介講座を行いました。本場のレシピや、中国人の生の声による文化紹介に感動したということで、驚きと発見の声を参加者の方々から多くいただきました。参加者の中には、路さんと中国語で会話をしようと練習されてきた方もいらっしやり、路さんとの中国語での会話を楽しまれたようでした。

各市町の皆様に、県国際交流員の出身国を理解していただくだけでなく、講師も参加者も一緒になった楽しい交流の場となりました。



《料理講座の様子》

県内在住外国人による公募型国際理解講座講座



県内に在住する外国籍の方々を講師として募集し、自国の文化を県民に紹介する公募型国際理解講座を2回行いました。

12月に行われたアメリカンクリスマス紹介講座では、アメリカ出身のご家族に講師になっていただき、日本とアメリカのクリスマスの比較、アメリカにおける一般的なクリスマスの過ごし方、クリスマス・ソング、デコレーションクッキーの作り方など、多くのことを教えていただきました。

《The 12days of Christmasを皆で歌いました》

講師のご家族による愛情溢れる雰囲気の中、参加者の方々は楽しく歌を歌ったり、クッキーに飾り付けを行ったりしました。「これまで知らなかった日本独自のクリスマス文化を知りいい機会となった。」「アメリカのクリスマスがどんなものか初めて知った。」「講師の方とのおしゃべりが、英語を話す良いきっかけにもなった。」などの感想をいただき、講師の方と参加者の方との素敵な交流が行われた講座となりました。

地域国際交流促進事業

本事業では、国際交流への関心を高めてもらう目的で、地域の外国籍の方々や国際交流団体と連携し、県内各地のイベントに当協会のブースを出展しています。今年度は、鹿児島市の「MBC夏祭り」、日置市の「まるごと伊集院フェスティバル」、湧水町の「ビストロ交流会」にブースを出展しました。

平成25年7月に行われたMBC夏祭りでは、鹿児島市と共に国際交流ブースを出展し、協会のパンフレット配布、ブラジル鹿児島県人会創立100周年イベント等の広報、県国際交流員らによるミニコンサート、中国・韓国文化理解会話テキストCDの販売を行いました。

また、来客の皆さんには、6言語の挨拶のスタンプラリーや、外国の切手を使ってしおり作りをしてもらいました。子ども達は、県国際交流員、留学生、在住外国人のスタッフと、その国の言葉で挨拶の練習をしながらスタンプラリーを行い、語学に興味を持った様子でした。外国の切手を使ったしおり作りは、大人にも大人気でした。



《国際色豊かなスタッフ MBC夏祭りの様子》

鹿児島県青少年国際協力体験事業



《現地学校交流にて》

これまでに、延べ269人の中高生を東南アジアの5ヶ国に派遣してきた本事業は、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、当協会の3団体によって平成2年度より企画・実施されており、今年で22回目を迎えました。今年度は、平成25年7月21日から28日までの8日間、県内各地から選ばれた中高生17名をベトナム中部、ダナン市に派遣しました。

派遣期間中、団員の皆さんは、青年海外協力隊の活動視察を通して言葉や文化の違いに戸惑いながらも、努力し現地で活躍している隊員たちの姿に圧倒され、4泊5日のホームステイや現地での学校交流、古都ホイアンの世界遺産や首都ハノイの観光を通して、両国の歴史や文化を学び、互いの理解を深めました。団員たちにとって忘れられない経験となったと共に、日本人として世界に貢献できる可能性と自身の進路について考えるきっかけとなったようです。団員の皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。

第22回（平成25年度）報告書：<http://www.synapse.ne.jp/kia/international/taikenjigyo.html>

韓国全羅北道文化探訪団派遣事業

韓国全羅北道庁の御好意と御協力で行っております本事業も、今回で5回目となりました。

出発の前日から台風が来ており、出発の日もその影響でギリギリまで飛行機が飛ぶのかと心配になりましたが、出発する頃には今回も良い旅になると予感させるようないいお天気の中出発することができました。

韓屋村での韓紙体験や韓服を着ての礼儀体験、また国楽の聖地で見た南原市パンソリ鑑賞に、個人旅行では味わえない韓国の文化を身近に感じることができたと、皆さん感動されていました。また、マッコリを飲みながら全羅北道かごしまクラブの方々と交流し、楽しい時間を過ごしました。

参加者からは「韓国でも料理がおいしいと言われる地域だけあって、大変美味しかった。」「全羅北道の方々の歓待に驚き、感動した。」など感想をいただきました。今回も参加者の多くが全羅北道の文化、歴史を堪能し、韓国の方々のきめ細やかなおもてなしに感動した旅になりました。



《かごしまクラブの方々と》

香港城市大学専上学院日本語研修



《浴衣を着て照国神社六月灯へ行きました》

日本語を学ぶ香港城市大学専上学院の学生8名が来鹿し、平成25年7月7日から28日までの22日間、日本語学習をはじめ、7泊8日のホームステイ、浴衣着付け、茶道、日本料理作り、おぎおんさあ参加などを含む研修を行いました。

今年度初めての鹿児島大学訪問では、同年代の学生の皆さんと図書館を見学したり、学生食堂で昼食を食べたりしました。日本の大学の雰囲気味わいながら、学生との交流が叶った活動となりました。

また緊張で始まった約1週間のホームステイでは、家族の温かさに触れ、あっという間に家族の一員になったようで、お別れ会や空港での出発ロビーでは、別れを惜しみ号泣する学生もいました。

22日間の研修を経て、日本への知識・関心を更に深めて香港へ戻った8名の学生達が、今後、鹿児島と香港の架け橋へとなってくれることを願っています。

鹿児島県青少年海外ふれあい事業

平成25年10月30日から11月6日までの7泊8日間、5名のシンガポール青少年の受入れを行い、シンガポールの皆さんには、1泊2日のホームステイや中学校訪問の他に、鹿児島県青少年と共に砂むし温泉、鰯の養殖場で餌やり、おはら祭りへの参加、天文館散策などを体験してもらいました。

各訪問先で見る鹿児島の風景、そして、県青少年やホストファミリーとの交流は、シンガポールの皆さんの鹿児島に対する深い理解へと繋がったようです。

県青少年にとっても、言語の違いはあるものの、交流を持ちたいという積極的な心と笑顔で過ごした時間は貴重な体験となったようで、それぞれに友好的な関係を築き、プログラムを終えることが出来ました。今後、参加者同士が交流を深め、その輪が広がっていくことで、シンガポールと本県との関係がより強い絆で結ばれていくことを期待しています。



《長島は東町漁協にて鰯の餌やり漁業体験》

世界も、自分も、変えるシゴト。～ JICAボランティア～

JICAボランティア事業は、国際協力の志を持った方々を開発途上国に派遣し、途上国の人々とともに生活し、異なる文化・習慣に溶け込みながら、草の根レベルで途上国の抱える課題の解決に貢献する事業です。JICAボランティアの活動の基本姿勢は、「現地の人々と共に」という言葉に集約されています。つまり、派遣された国の人々と共に生活し、彼らの言葉を話し、相互理解を図りながら、彼らの自助努力を促進させる形で協力活動を展開していくことなのです。



<JICAボランティアには、以下の4種類があります。>

青年海外協力隊／シニア海外ボランティア

- 【対象年齢】 青年：20歳～39歳／シニア：40～69歳
※日本国籍を持つ方
- 【派遣期間】 原則2年間
- 【協力分野】 農林水産，教育，医療からスポーツまで幅広い分野
- 【募集期間】 春募集・秋募集の年2回



〈シニア海外ボランティア・モロッコ・日本料理〉

日系社会青年ボランティア／日系社会シニアボランティア

- 【対象年齢】 青年：20歳～39歳／シニア：40～69歳
※日本国籍を持つ方
- 【派遣期間】 原則2年間
- 【協力分野】 日本語教育を中心に教育，保健衛生，社会福祉など
- 【募集期間】 秋募集のみ年1回



〈日系社会青年ボランティア・ブラジル・日系日本語学校教師〉

鹿児島県国際交流協会には JICA 事業の窓口として、「JICA デスク鹿児島」があります。
JICA ボランティアや国際協力にご興味のある方は、下記連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。
< JICA デスク鹿児島 > TEL : 099-221-6624(直通) E-mail : jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

国際交流プラザ（サロン&事務局）のご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 図書・ユニセフビデオ・国旗・民族衣装・地図の貸し出し
- ・ 外国語テレビの放映（英語BBC，中国語CCTV，韓国語KNTV）
- ・ 外国語新聞，雑誌等の閲覧
- ・ 在住外国人の生活相談
- ・ 中国語ランチタイムトーク（毎週火曜12：30～13：30）
- ・ 韓国語ランチタイムトーク（毎週水曜12：00～13：00）
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ
（毎週金曜12：00～13：00）



国際交流に関するご質問，JICAに関するお問合せや，ホストファミリー・語学ボランティアの登録については，事務局にて随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。
 ≪開館時間≫9：00～17：00（火曜日～日曜日）
 ≪休館日≫月曜日（但し祝日の場合はその翌日）・年末年始（12月29日～1月3日）

【国際交流プラザ，本誌に関する問合せ先，相談窓口】

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かごしま県民交流センター 1階

TEL : 099-221-6620

FAX : 099-221-6643

E-mail : kia@po.synapse.ne.jp

ホームページ : <http://www.synapse.ne.jp/kia/>

E-mail : kia8@po.synapse.ne.jp (相談窓口専用)